

# 令和5年度 三股町立三股中学校 学校評価書

4段階評価 4 期待以上(75%~100%) 3 ほぼ期待どおり(50%~74%) 2 やや期待を下回る(25%~49%) 1 改善を要する(0%~24%)

【学校の教育目標】 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

評価項目	評価指標	具体的数値目標と達成状況	方策・手立て	各評価(令和4年度)				各評価(令和5年度)				自己評価 総合	結果の考察・分析及び改善策等	評価員 コメント	評議員 コメント	
				教師	生徒	保護者	指標別	教師	生徒	保護者	指標別					
1	確かな学力の育成	「わかる・できる」授業の構築	生徒・保護者・職員の授業評価結果3以上	○「みまたんモデル」・「ひなたの学び」の推進 ○ 主題研に係る一人一授業とICT教育の推進 ○ 学校訪問を通じた授業力向上	3.2	3.4	3.0	3.2	3.0	3.3	3.3	3.2	3	○「わかる・できる」授業の構築については、「みまたん学習モデル」と県の「ひなたの学び（ひとりひとりが問をもち なかまとなって学びあいたかめよう深く考える力）」を念頭に、町教委主催の学校訪問や主題研での一人一授業の活用による授業力向上、1人1台端末の最適な活用に努めている。数値目標は達成しているが、教職員のベクトルを合わせることで更に成果が期待できると考え、具体的な取組について共通理解できる時間を確保する。  ○家庭学習の在り方については課題が見られる。授業で学んだ内容を家庭学習で定着させることが基本である。家庭学習が苦手な生徒もいるため、家庭での見守りに協力をもらいながら、学年では家庭学習の見届けを行い、各家庭と連携することで数値目標の達成を目指す必要がある。  ○読書量のアップについては、本年度図書支援員と連携を図り、図書館の利用数や貸出冊数は増加している。国語科と協力しながら読書の魅力及び朝の読書活動の充実を図ることで、数値目標に近づくことができると考える。	3	○子どもたちの「わかった」「おもしろい」「できる」といった姿が見られるよう授業の工夫改善をお願いしたい。主体的・対話的な授業の構築を目指してほしい。  ○家庭学習の手引きを使って、年度当初に教科ごとに確認をしてもらいたい。参観日や教育相談時にも啓発してはどうだろうか。教科間で学習量や共通理解しつつ、遠征等の生徒の活動予定や学習環境に応じて計画的に課題学習を達成できるような配慮も必要である。  ○国語科と連携し、選書にもこだわってほしい。冊数も大事だが、興味を喚起するには読んだページ数を記録するなどの工夫もできるのではないかと。
	家庭学習の充実	学力・実力テストの結果 地区・県平均以上	○「家庭学習の手引き」の周知と活用 ○ 復習課題の工夫・学習時間の確保	2.6	3.0	2.5	2.7	1.9	2.7	2.4	2.3					
	読書活動の推進と読書量アップ	読書冊数 一人年間20冊	○ 図書室からの広報活動の実施	2.5	2.6	2.3	2.5	2.2	2.6	2.2	2.3					
2	心の教育の充実	文教のまち三股の伝統教育の推進	保護者・生徒・教員のアンケート結果3以上	○ あいさつ・校門での一礼の実施 ○ 無言清掃の実施 ○ 自主的・自発的な生徒会活動の活性化	2.7	2.7	3.4	2.9	2.8	3.4	3.2	3.1	3	○文教のまち三股の伝統教育の推進については、具体的な活動を共通理解し、実践している。実践内容について、ブラッシュアップおよび見直しも必要であり、定期的なPDCAサイクルの実施により数値目標を達成できると考える。  ○いじめ防止対策・不登校生徒等への対応については、町教委（適応指導教室）と密に連携しているが、1月の不登校生を統計から見ると、1年生8名（2.5%）、2年生20名（6.7%）、3年生19名（7.3%）と手立てが急務である。教師のカウンセリングスキルやコミュニケーションスキル、魅力ある集団づくりや授業づくり、コーチングスキルを高めるための生徒理解研修やOJTの構築により数値目標を達成したい。  ○思いやりの心の育成については、ピアサポートやスクールワイドPBSの考えを取り入れた生徒会活動等により、生徒・教師ともに意識が高まっている。活動を年間行事に具体的に明記することで共通理解を図ることで、生徒の自己有用感も高まると考える。	3	○生徒・教師で評価が上がっている。あいさつ・無言清掃など凡事徹底には時間がかかるが、生徒自らの行動となるよう生徒会活動等の活性化に期待する。  ○朝、学校とは反対方向に歩いている生徒を見かける。家庭での親子の関係はどうか。家庭との連携を進めるにあたって、子どもが学校に行きたいと思わせる方策について共に根気強く考えていかなければならない。  ○スクールワイドPBSの取組が生徒の評価に現れている。「人をダメにするコトバ」、生徒会での「サツキ言葉」の啓発に努めてほしい。
		いじめ防止対策・不登校生徒等への対応	不登校率3.5%以下	○ いじめ防止基本方針の定着 ○ 月に1度のいじめアンケートの実施 ○ 教育相談アンケートと相談の充実	/	/	/	/	/	/	/	/				
		思いやりの心の育成	保護者・生徒のアンケート結果3以上	○ 合理的な配慮を考慮した特別支援教育の充実 ○ 全教育活動を通じた道徳教育・人権教育の充実 ○ 言語環境の整備と言語活動の充実	2.9	3.1	3.4	3.1	2.8	3.3	3.3	3.1				
3	健康安全と体力の向上	交通安全指導や安全点検の徹底	保護者・生徒・職員のアンケート結果3以上	○ 通学路の安全確認・登下校指導 ○ 安全点検や授業、部活動でのケガ予防	2.2	3.7	3.5	3.1	2.1	3.7	2.9	2.9	3	○生徒の交通ルールの遵守についての意識は非常に高いが、職員の評価は低い。地域からの交通安全に関する連絡も多く、帰りの会や給食での放送、集会等による指導を行っているが、成果は見えにくい。定期的にPTAや地域団体および警察の協力を得て、交通指導の充実や、危険箇所へ立ち番指導等により成果を出していきたい。  ○危機管理意識の向上については、避難訓練や不審者への対応等充実しているが、SNSトラブル等情報モラルの意識については課題が見られる。身体的危険性や法律の問題について学び、特別活動をはじめ全教育活動全般において情報モラル教育をしていく必要がある。  ○主体的な体力向上や健康意識の育成については、立腰指導は日頃の実践を行っているが、実践内容について再考し意思疎通を図る必要がある。食育については、弁当の日の実施や充実した給食指導等を行っている。部活動の休養日については、年間を通じて計画されており、徹底的を図っている。	3	○600台以上の自転車が一齐に下校するため、混雑は避けられない。継続的に粘り強く指導していく必要がある。警察等関係機関に支援をもらいながら、根本的な解決に向けた努力をしてほしい。  ○情報モラルについては、県が出している「GIGAワークブック」を各教科・領域等で活用してはどうか。  ○部活動の休養日に関して、都北地区で定着していると思われるが、休養日の有効な過ごし方を家庭と連携して啓発を行ってはどうか。
		危機管理意識の高揚	保護者・生徒のアンケート結果3以上	○ 予告なしの避難訓練の実施・防災教育の実施 ○ SNS普及の対応と、情報モラル教育の充実 ○ 感染症対策等の充実	2.5	3.7	3.4	3.2	2.7	3.8	3.3	3.3				
		主体的な体力向上や健康意識の育成	保護者・生徒・職員のアンケート結果3以上	○ 立腰指導 ○ 栄養教諭と連携した「弁当の日」の実施 ○ 部活動における休養日の推進	3.0	3.2	3.1	3.1	3.3	3.2	3.1	3.2				
4	家庭・地域との連携	地域と共にある学校づくり	保護者・職員からの評価3以上	○ 学校ホームページの内容充実 ○ 各種通信などによる情報提供の充実	3.1	/	3.4	3.3	3.4	/	3.3	3.4	3	○地域と共にある学校づくりについては、町教委や役場、文化会館等の協力を得て、構築しやすい環境にある。コロナ禍からの教育活動を徐々に再開しながら、自治公民館連絡協議会や民生委員児童委員協議会、青少年指導員連絡協議会等の関係団体と連携し、情報共有に努める。HPIによる情報発信、学校長による学校通信は大変充実している。  ○コロナ禍後で多くの行事等が復活し、参観日に加え体育大会や合唱コンクール等、開かれた学校づくりに努めた。、安心安全メールの活用により、真に保護者が聞きたい情報をタイムリーかつ効率的に発信していきたい。	3	○学校HPIは100万カウントを超えており、家庭・地域との情報の共有がされている。コロナ後の地域との連携活動については精査し有効なものにされたい。PTAと地域の連携について再構築を進めてもらいたい。  ○民生児童委員等の会議を学校を開放して行うのもよい。学校の様子を見てもらえる機会となり、より具体的な連携の案も出てくるのではないだろうか。  ○参観日では多くの保護者が参観し、父親の姿も多かった。学校教育への期待の高さが伺える。
		家庭・地域との信頼関係の構築	保護者・職員のアンケート結果3以上	○ 魅力ある学校参観日の計画と運営 ○ 「あんしんメール」の登録推進と内容充実 ○ 保護者等と学校の連絡体制の確立	3.2	2.5	3.1	2.9	3.4	2.6	3.1	3.0				